

腎盂 inverted papilloma の 1 例

住友病院泌尿器科 (部長: 板谷宏彬)

辻畑 正雄, 三宅 修, 伊東 博
若月 晶, 板谷 宏彬

INVERTED PAPILLOMA OF THE RENAL PELVIS

Masao Tsujihata, Osamu Miyake, Hiroshi Itoh,
Akira Wakatsuki and Hiroaki Itatani*From the Department of Urology, Sumitomo Hospital*

A 60-year-old man with inverted papilloma of right renal pelvis is presented. On visit to hospital for benign prostatic hyperplasia with prostatic stone, he was found to have microscopic hematuria and intravenous pyelography and retrograde pyelography demonstrated a filling defect with papillary contour. We diagnosed a right renal pelvic tumor, which showed to be low grade because of negative cytology. Therefore, we performed tumor resection with renal preservation. Pathological diagnosis was inverted papilloma. From the Japanese and foreign literature, 16 cases of renal pelvic inverted papilloma were collected. They were reviewed clinically and pathologically, and the therapy was discussed.

(Acta Urol. Jpn. 37: 1695-1698, 1991)

Key words: Inverted papilloma, Renal pelvis

緒 言

Inverted papilloma は、比較的稀な尿路上皮の良性腫瘍と考えられているが、上部尿路でも特に腎盂の場合には、きわめて稀である。最近われわれは、腎盂 inverted papilloma の症例を経験したので報告するとともに、その治療法を中心に考察を加えた。

症 例

患者: 60歳, 男性

主訴: 排尿困難

既往歴: 約10年前腎結石自排, 約3年前十二指腸ポリプ切除術。

家族歴: 特記すべきことなし

現病歴: 1989年11月, 尿放出力減退にて当科受診。前立腺肥大症, 前立腺結石, 尿路感染症の診断にて, 抗菌剤内服で経過観察していた。同年12月, 顕微鏡的血尿が認められたため, DIP 施行。右腎盂に陰影欠損がみられ右腎盂腫瘍の診断にて1990年4月当科入院となった。

入院時現症: 身長 162 cm, 体重 60 kg. 体格栄養中程度。右上腹部傍腹直筋切開創あり, 前立腺は軽度肥

大あるも弾性硬, 表面平滑。

入院時検査所見: 検血, 生化学ともに異常を認めず。検尿でも潜血反応を認めない。

尿細胞診: class 1.

膀胱鏡検査: 膀胱内に腫瘍を認めず。前立腺肥大を認める。

放射線学的検査所見・入院前に施行した DIP 20分像では, 右腎盂に陰影欠損が認められる。尿管・膀胱には, 異常を認めず, 水腎症の所見もない。Fig. 1 は DIP 20分, 右腎盂・腎杯拡大像であるが, 右腎盂に乳頭状腫瘍様陰影欠損が認められる。逆行性腎盂造影像でも, DIP 同様右腎盂に乳頭状腫瘍様の陰影欠損が認められた。なお, その際に採取した右腎盂洗浄液の細胞診も class 1 であった。以上よりわれわれは, TCC でも grade の低いものと考え, 腎保存的手術を試みた。

手術所見・まず腫瘍を確認し観察する目的で 9Fr の尿管 fiber (Storz) 挿入を試みた。しかし, fiber の挿入が困難であったため中止し, 腎盂切開術を行ったのち, 腎盂 fiber (Storz) を挿入して腎盂を観察した。それにより, 黄色調・有茎性の乳頭状腫瘍を認め, 炎症性ポリプもしくは, grade の低い TCC

と考え、治療として異物鉗子 (Storz) にて腫瘍を摘出し腫瘍周辺腎盂粘膜の一部を biopsy し、腎は温存した。

病理組織学的所見 (Fig. 2); 腫瘍表面には多層化傾向を示す比較的異型が少ない移行上皮が覆い、その内側では索状の配列を示し、多層化傾向の目立つ移行上皮が増生が認められる。個々の細胞に異型性はなく、核分裂像も認められない。以上より、腎盂 inverted papilloma と診断された。

現在患者は、外来にて定期的に DIP および尿細胞診にて経過観察されているが、再発および通過障害はなく良好である。

考 察

Inverted papilloma は、尿路および鼻腔、副鼻腔などに発生することが知られている。尿路の inverted papilloma は、Potts ら¹⁾が1963年に最初の膀胱 inverted papilloma を報告して以来、膀胱に発生するものがほとんどで上部尿路での発生は稀である。特に腎盂に発生するものは稀で、腎盂 inverted papilloma の場合、Matz ら²⁾が1974年に報告して以来自験例を含めて16症例の報告を集計しえた³⁻¹⁴⁾ (Table 1)。これら16症例に、これまで欧米および本邦での報告を合わせた尿管 inverted papilloma 31症例 (Kyriakos ら, 1989まで)を加えた上部尿路 inverted papilloma 症例に対して、年齢、性別、臨床症状および治療において集計を行った (Table 2)。なお、47症例には、報告はしていないが、以前当科で経験した尿管 inverted papilloma を加えて検討した。年齢は48~89歳、平均64.2歳で60歳代が半数近くを占めている。性比は、4.5:1と圧倒的に男性に多い。臨床症状は、肉眼的血尿が27例 (69%) で、顕微鏡的血尿を含めると31例 (80%) に血尿が認められている。また、偶然に発見される case も4例 (11%) となっている。治療法では、腎尿管摘出術が25例となっており、過半数を占めている。腎を摘除するか、保存するかは、術前診断および患側腎機能によるところが大きい。術前検査において、尿管癌・腎盂癌が疑われたり、高度な水腎症を呈し腎機能の廃絶した症例に対しては、腎尿管摘出術もやむをえないであろう。尿路の inverted papilloma の病理組織学的特徴について、Henderson ら¹⁵⁾は、1) 呼吸器路の inverted papilloma と類似する上皮の内翻構成、2) 腫瘍の表面の移行上皮の被覆、3) 上皮細胞の均一性、4) きわめて稀な核分裂、5) microcyst の形成、6) 扁平上皮化生を診断基準としている。一般的には、尿路の inverted papilloma は、その再

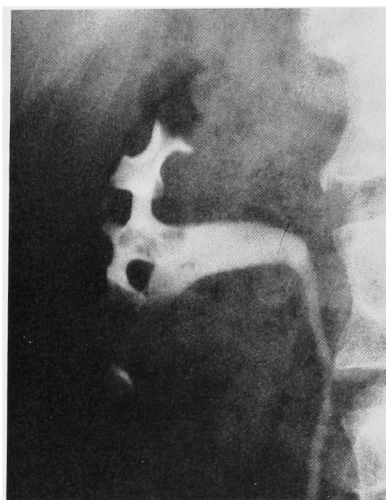


Fig. 1. Magnification of right collecting system demonstrated a filling defect with papillary contour.

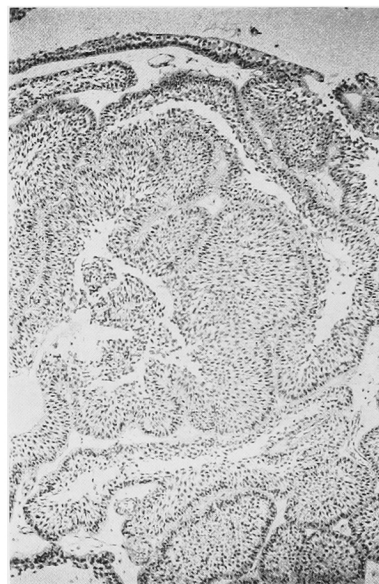


Fig. 2. Inverted epithelial cords with scanty stromal tissue. Neither nuclear atypia nor mitosis were observed.

発が稀なこと、病理組織学的に悪性所見を呈した症例が少ないことより臨床的には、良性腫瘍と考えられている。ただ最近になり、再発例^{16,17)}や悪性所見^{7,11,18-20)}を持つ inverted papilloma の症例が増加してきていることも事実である。再発に対しては、尿細胞診やX線撮影による follow up が重要となってくるであろうし、TCC inverted type に対しては、それが上

Table 1. Renal pelvic inverted papilloma in literature.

腎盂 inverted papilloma の報告例						
報告者 (報告年度)	症例	年齢	性	部位	臨床症状	治療
Matz ら (1974)	1	68	男	左	左腰部痛 肉眼的血尿	腎尿管摘出術
Assor (1976)	2	79	男	右	右腰部痛 肉眼的血尿	腎盂部分切除術
Cameron ら (1976)	3	58	女	?	顕微鏡的血尿	腎尿管摘出術
Theoret ら (1980)	4	89	男	?	(-)	?
Uyama, Moriwaki (1981)	5	73	男	左	顕微鏡的血尿	腎尿管摘出術
Anderstrom ら (1982)	6	49	男	右	無症候性血尿	?
	7	62	男	左	無症候性血尿	腎尿管摘出術
Arrufat ら (1983)	8	?			?	?
Kunze ら (1983)	9	?			?	?
	10	?			?	?
Watters ら (1983)	11	65	男	左	顕微鏡的血尿	腎尿管摘出術
Lausten ら (1984)	12	63	男	右	無症候性血尿	腫瘍切除術
Taylor, Arroyo (1986)	13	65	男	右	無症候性血尿	腎尿管摘出術
Yamaguchi ら (1988)	14	73	男	右	無症候性血尿	腎摘出術
Kyriakos ら (1989)	15	73	女	右	(-)	腎尿管摘出術
自験例 (1990)	16	60	男	右	顕微鏡的血尿	腫瘍切除術

部尿路系であれば腎尿管摘出術も必要になろう。しかし、著者らは、一般的に上部尿路 inverted papilloma に対しては、性尿管鏡、尿管 fiber の発達により、術前検索をしっかり行えば、今後尿管部分切除術、腫瘍切除術などの腎保存的手術が、さらに増加し、またそうあるべきだと考える。

本論文の要旨は第 132 回日本泌尿器科学会関西地方会において発表した。

文 献

- 1) Potts IF and Hirst E: Inverted papilloma of the bladder. J Urol **90**: 175-179, 1963
- 2) Matz LR, Wishart VA and Goodman MA: Inverted urothelial papilloma. Pathology **6**: 37-44, 1974
- 3) Assor D: Inverted papilloma of the renal pelvis. J Urol **116**: 654, 1976
- 4) Cameron KM and Lupton CH: Inverted papilloma of the lower urinary tract. Br J Urol **48**: 567-577, 1976
- 5) Theoret G, Paquin F, Schick E, et al.: In-

Table 2. Distribution of age, sex, symptoms and therapy.

上部尿路 inverted papilloma 47例 (腎盂16例, 尿管31例) の集計 (腎盂1例, 尿管1例の自験例含む)			
年齢	48歳~89歳	平均 64.2歳	
性	男 36例 女 8例 (不明 3例)	性比 4.5:1	
臨床症状	肉眼的血尿	27例	69%
	顕微鏡的血尿	4例	11%
	腰部痛	8例	21%
	無症状	4例	11%
	(不 明)	8例)	
治療	腎尿管摘出術	25例	
	腎盂 or 尿管部分切除術	12例 (自験1例を含む)	
	腫瘍切除術	5例 (自験1例を含む)	
	その他	1例	
	(不 明)	4例)	

- verted papilloma of urinary tract. Urology **16**: 149-151, 1980
- 6) Uyama T and Moriwaki S: Inverted papilloma with malignant change of renal pelvis.

- Urology **17**: 200-201, 1981
- 7) Anderstrom C, Johansson S and Pettersson S: Inverted papilloma of the urinary tract. *J Urol* **127**: 1132-1134, 1982
 - 8) Arrufat JM, Vera-Roman JM, Casas V, et al.: Papilloma invertido de ureter. *Acta Urol Esp* **7**: 225-228, 1983
 - 9) Kunze E, Schauer A and Schmitt M: Histology and histogenesis of two different types of inverted urothelial papillomas. *Cancer* **51**: 348-358, 1983
 - 10) Watters G, Grant A, Wiley S, et al.: Inverted papilloma of the upper urinary tract. *Br J Urol* **55**: 176-179, 1983
 - 11) Lausen G, S Anagnostaki L and Thomsen OF: Inverted papilloma of the upper urinary tract. *Eur J Urol* **10**: 67-70, 1984
 - 12) Taylor FM and Arroyo JG: Inverted papilloma of the renal pelvis: cytologic features of uretera washings. *Acta Cytol* **30**: 166-168, 1986
 - 13) Yamaguchi K, Kitagawa N, Zama S, et al.: Inverted papilloma of renal pelvis associated with transitional cell carcinoma of the bladder. *Urology* **43**: 302-304, 1988
 - 14) Kyriakos M and Royce RK: Multiple simultaneous inverted papillomas of the upper urinary tract. *Cancer* **15**: 368-380, 1989
 - 15) Henderson DW, Allen PW and Bourne AJ: Inverted urinary papilloma. *Virchows Arch* **366**: 177-186, 1975
 - 16) 黒岡雄二, 金村三樹郎, 上兼堅治, ほか: 異所再発をきたした Inverted papilloma の1例. *日泌尿会誌* **76**: 459, 1985
 - 17) 横山 修, 沢木 勝, 打林忠雄, ほか: Inverted papilloma of the bladder の3例. *日泌尿会誌* **76**: 791, 1985
 - 18) 斎藤史郎, 飯ヶ谷知彦, 小山雄三: 尿管に発生した内反型移行上皮癌の1例. *日泌尿会誌* **77**: 1016, 1986
 - 19) 木村 剛, 坪井成美, 中島 均, ほか: 内反型増殖形態を示した尿管移行上皮癌の1例. *日泌尿会誌* **77**: 1040, 1986
 - 20) 矢島通孝・星野孝夫, 岩崎 皓, ほか: 悪性所見を呈した尿管の inverted papilloma の1例. *泌尿紀要* **33**: 1427-1431, 1987

(Received on January 17, 1991)
(Accepted on May 9, 1991)